

## 「防衛大学校 1 学年による県知事表敬」



茨城地本（本部長・栗秋健士1空佐）は、令和7年8月6日（金）茨城県庁において防衛大学校1学年による大井川和彦茨城県知事への表敬を実施した。本表敬は、平成25年から実施しており、将来、指揮官として首長と防衛・警備や災害等への対応に関する対話をするに当たり、その雰囲気を感じて将来の糧とするにも自衛隊や防衛大学校への理解の促進を目的として実施している。今年度の表敬は、茨城県出身の1学年6名と4学年の2名とそのご家族が参加し、今春入学した1学年の伊達琉青学生が号令をかけ、県知事へ出身高校、入校の動機等を報告した後、懇談へ移行した。

懇談の際には、学生から防衛大学校の指導要領の変更や防大に入校しての驚きや苦勞した事について説明した後、学生から県知事への質問の中で「なぜ、経済産業省に入省しキャリアを重ね、安定している公務員という身分からマイクログソフト、ドワンゴを経て茨城県知事になられたのですか」との質問に対し茨城県知事からは、「準備したお手本のような質問ですね」と笑顔で学生に返し、参加したご家族の笑いを誘い緊張が和らいだ。

県知事は学生に対し「安定を求めるために経産省に入省したわけでもなく、今、自分がどのように役に立っているか、自分が輝けるか、活躍できるか考えながら仕事した結果です」と回答していた。県知事は、学生の将来を聞き、自身の経歴を重ねる学生に「学生のうちに沢山の経験、考え方、環境にうちで成長します。この場にいる方に怒られるかもしれませんが、一旦離れてまた戻るといいうのも違う視点で成長には重要です」と優しく助言していた。

その後、県知事は学生に対し将来はどのような分野に進みたいのかとどの質問に対し、学生からは、駐在武官や機甲科の指揮官を目指す等の夢、目標を緊張しながらも発言していた。

懇談の最後には知事から「頻発化・激甚化する災害、厳しさを増す安全保障環境など、自衛隊の役割はますます重要になっていきます。将来への夢を抱きつつ、学業や訓練に励み、幅広い分野で活躍されることを祈っています。頑張ってください」と激励をいただき、帰郷報告は終了した。

報告後、学生と家族が一緒に撮影し、茨城ボースで記念撮影を行った。県知事が退室される際、学生一人一人に握手をし声掛けをしているのがとても印象的だった。

控室に戻った後、学生に感想を聞いたところ、「今まで、一番緊張した。汗が止まらなかった」と緊張の感想が多かった。将来の夢をご家族と県知事の前で報告することにより、防大での基礎固め、部隊での経験と出合いを積み重ねる夢を叶える決意を新たにしていた。

## 「協力団体による陸上自衛隊富士学校研修」



茨城地本（本部長・栗秋1空佐）は、令和7年8月28日（木）富士学校及び東富士演習場において、富士学校広報班及び関東補給処輸送隊の支援を受け、茨城県の自衛隊家族会、防衛大学校学生父母会及び高等工科大学校保護者会45名に対し研修を実施した。

本研修は、協力団体間の相互理解、連携強化及び自衛隊に対する理解を深めるため実施し今年で2回目となる。

東富士演習場では、機甲科部が実施するBOC（BU）「10式戦車及び16式機動戦闘車の単車戦闘射撃」を研修した。

演習場が広大なため、戦車が小さく見えたが、射撃位置に進入し的に向かい射撃した瞬間に戦車周辺には爆音と砂塵が舞い上がり同時に、研修者の体が固まるのが分かった。射撃速度が速く弾着した後に研修者が的に向かい首を一齐に向けていた。

研修者は「初めて、射撃を見たが爆音に驚いた、射撃の精度に驚いた」と話していた。この他、戦車1両の射撃に対し隊員が様々な色の帽子で勤務している隊員に気付いて、管理態勢に関心している研修者もいた。

射撃が終了し、富士駐屯地での研修では資料館の見学、体験喫食及び体験搭乗を体験した。資料館では、富士駐屯地の概要説明の他、勤務員からの順路に沿った時代ごとの戦史等の説明でもっとも研修者については熱心にその説明を聞いていた。研修者からは、丁寧な説明でもっとも説明してもらいたかった、個人的に訪れることができるのか等の質問があった。

研修の最後は、96式装輪装甲車の体験試乗、UAV、12式地对艦誘導弾、19式装輪自走155mmりゅう弾砲等の装備品の大きさに驚いていた。体験搭乗や装備品の展示・説明は、とても丁寧で分かりやすかった、説明をしていた隊員は固いイメージだったが話すとても気さくだったなどイメージが変わったとの声もあった。展示の最後に、快く写真を撮ることができて大変貴重な時間だったと感謝が多くあった。

この研修に対応していただいた富士学校及び安全な輸送を支援していただいた関東補給処輸送隊に感謝するとともに引き続き各駐屯地と連携し、募集対象者及び協力団体に対し、自衛隊への理解・適齢者の確保のため協力団体と一丸となり一員プラス一のため引き続き実施していく。